

平成23年10月14日

社団法人日本人材派遣協会 御中

社 会 保 障 審 議 会
短時間労働者への社会保険
適用等に関する特別部会

短時間労働者への社会保険適用等に関するヒアリングのお願いについて

貴会におかれましては、ますますご発展のこととお慶び申し上げます。

現在、当特別部会におきましては、本年7月1日に閣議報告された「社会保障・税一体改革成案」に盛り込まれました、短時間労働者への社会保険の適用拡大について、検討を行っております。

これまでの会合では、適用拡大の必要性和意義について議論をまいりました。その上で、具体的な適用範囲を検討するに当たっては、対象となるパート労働者の就業実態や、企業経営の実態、適用拡大がこれらに与える影響について、特に影響の大きい業種を中心に、把握するよう努める必要があると考えております。

つきましては、10月24日（月）（10：00～12：30）に開催されます当特別部会（第5回）にお越しいただき、短時間派遣労働者の就業実態などについてご報告をいただくとともに、適用拡大に関するご意見をお聞かせいただくよう、お願い申し上げます。また、お引き受けいただける場合には、ヒアリングを効率的に進める観点から、事前に別紙の質問項目への回答を文書にて作成いただき、事務局あてご提出いただくよう、お願い申し上げます。

質問 1. パート労働者への社会保険適用のあり方について

- ① パート労働者（短時間労働者）に対する社会保険の適用拡大の必要性についてどう考えるか。
- ② 被用者には、被用者にふさわしい年金・医療保険を確保すべきとの考え方について、どう考えるか。
(年金について) 社会保険が適用されていないパート労働者のうち、特に国民年金の第1号被保険者は老後に所得が十分に確保できない可能性が強い。パート労働者の老後の所得保障のあり方をどう考えるか。特に、パート労働者の中でも、若年フリーター層や母子家庭の母の老後の所得保障のあり方をどう考えるか。
(医療保険について) 本来被用者保険に加入すべき被用者でありながら、地域保険に加入し、事業主が費用（保険料）の半額を負担する被用者保険の適用を受けられないパート労働者の医療保障のあり方をどう考えるか。
- ③ 適用拡大する場合の新たな適用基準のあり方についてどう考えるか。企業の事務負担の軽減及び行政による適切な適用の観点からは、適用基準をできる限り簡潔なものにすることが適当との指摘をどう考えるか。
- ④ 社会保険制度における、働かない方が有利になるような壁を除去し、就労促進型、少なくとも中立なものに転換すべきとの考え方について、どう考えるか。現行の適用基準による「就業調整」の発生が、働くことを希望する労働者の能力発揮や企業の生産性向上の機会を損ね、ひいては社会経済にマイナスの影響を与えている可能性について、どう考えるか。
- ⑤ 社会保険の適用拡大に併せて第3号被保険者・被扶養配偶者の認定基準（年収130万円）の見直しを行うことについてどう考えるか。
- ⑥ 企業の社会保険料負担を業種や雇用形態によって異なる公平なものにすべきとの考え方について、どう考えるか。

質問2. 短時間就業の派遣労働者の就業実態・雇用管理の実態について

- ① 短時間就業の派遣労働者のうち、生計の中心ではなく、その家計における役割が補助的なものである派遣労働者の割合はどの程度か。また、生計の中心として、または中心ではないものの生計を維持する必要性から就業している短時間就業の派遣労働者の割合はどの程度か。
- ② 短時間就業の派遣労働者について、年収が130万円に届かないよう、または就労時間が「通常の労働者の4分の3以上」に該当しないよう、労働者自身が就労時間を調整するケースは、どの程度の頻度で生じているか。企業経営への影響はどうか。
- ③ 適用拡大が実施された場合に、新たな適用基準にあわせて短時間就業の派遣労働者の雇用管理や人材活用のあり方を変更することは考えられるか。

質問3. 適用拡大による雇用・企業経営への影響

- ① 適用拡大を実施した場合に、社会保険の適用を避けるために派遣労働者自身が新たな適用基準以下に労働時間を抑える可能性はどの程度考えられるか。その際、主に就業調整を行うと考えられる派遣労働者の主な属性（第3号被保険者、学生など）は何か。
- ② 適用拡大を実施した場合、保険料負担を避けるために就業調整を行う者が生じる一方で、より長い時間働くことを希望する者もいると考えられるが、どうか。特に、生活を維持するために就業している短時間就業の派遣労働者の場合には、一般的に本人分の保険料負担が減少する第1号被保険者のみならず、第3号被保険者であっても、保険料負担による手取り減分を確保する必要性や、就業調整の必要がなくなることにより、より長い時間勤務して収入を増やすことを望む者も多いと考えられるのではないか。
- ③ 短時間就業の派遣労働者への適用拡大が行われた場合の労働者派遣事業を行う企業の経営への影響はどうか。企業の規模や経営形態により違いはあるか。影響がある場合に、事業主は一般的にどのような対応をとると考えられるか（短期的な対応と中長期的な対応）。
- ④ 適用拡大に伴う派遣元事業所の事務負担についての影響をどう考えるか。それは、企業の規模や経営形態により違いはあるのか。
- ⑤ 医療保険の適用拡大を実施した場合には、保険者に新たな後期高齢者医療支援金や介護給付費納付金の負担が生じることや、複数事業所で適用を受けるが増えること、健保組合財政に影響が生じることが考えられるが、こうした問題をどう考えるか。
- ⑥ 適用拡大を実施した場合に、派遣元事業所の事業主が、社会保険の適用を避けるために、個別の派遣労働者の希望にかかわらず、新たな適用基準以下に労働時間を抑える可能性はどの程度考えられるか。

- ⑦ 適用拡大を実施した場合に、一般の事業主が、保険料の負担増に対応するために、直接雇用のパート労働者の人数を減らし、派遣労働者や業務請負の人数を増やすといった対応をすることは考えられるか。
- ⑧ 適用拡大による負担増に対応するために、派遣元事業所の事業主が、個々のパート労働者の労働時間を減らす代わりに、人数を増やして受注業務量に対応することが考えられるか。この場合、労働市場におけるパート労働者全体の人数には限りがあること、また、雇用管理が複雑になり、かえってコスト増となることから、実際にそのような対応は難しいのではないかと考えられるが、どうか。
- ⑨ 適用拡大を実施した場合に、派遣元事業所の事業主は保険料負担増分について、当面どのように対応するか。例えば、派遣料金に転嫁するか、派遣労働者に支払う賃金額を調整して対応するか、派遣元事業所の事業主の純粋な負担とするか。
- ⑩ 適用拡大により短期的には企業の保険料負担が増加するが、中長期的には、短時間労働者の処遇が総合的に改善されて定着率が高まることや、就業調整の必要性が低くなり事業主側の職業訓練へのインセンティブが高まることを通じて、短時間労働者の職業能力が高まり、ひいては企業の生産性に貢献する可能性について、どう考えるか。

質問4. 適用拡大による影響を緩和する方策

- ① 適用拡大を実施する場合に、保険料負担の増加により企業経営に生じる影響を緩和することが必要と考えるか。その際、社会保険制度の中ではどのような方策が考えられるか。
- ② 社会保険制度における方策のほかに、当面の負担が大きくなる業種や企業に対する雇用政策、産業政策として取り得る方策として、どのようなものが考えられるか。
- ③ 適用拡大を実施した場合の事務負担の緩和策として、どのような方策が考えられるか。
- ④ 適用拡大を実施するまでに十分な移行期間を設けることにより、雇用管理の仕組みを見直して適用拡大による影響を緩和することができる可能性について、どう考えるか。

以上